IDEC Open Day

（　　bS　　C　　）

2016年11月５日土曜日に、国際協力研究科において、「IDEC オープンデー2016」を開催し、約500名の方々にご来場いただきました。

IDEC で年に一度開かれるこのイベントは今年で4回目の開催となり、30ヶ国からの学生が参加しました。今年は１．ステージでのパフォーマンス、２．フード、３．伝統衣装の試着会、４．写真展示、５．国連職員による講演会、６．ワークショップ、７．IDEC カフェ（学部生等からの IDEC に対する質問に答えるコーナー）の７つのイベントを行いました。

学生が国の垣根を越えて協力し合い、そして同時に競い合った結果、今回のオープンデーがあったのではないかと思っています。例えばフードのコーナーで使ったテントは前日の準備で各国の学生による「協力」があって立てられました。そして当日、各国はそれぞれの魅力を「競う」かのように伝統料理を提供し、開始時間の12時からすぐに大変な賑わいとなり、早いところでは配布から１時間ほどで全ての食品がなくなる状況でした。

研究室訪問 Laboratory Series

平和構築論研究室（片柳研究室）
Peacebuilding Laborator（Katayanagi Laboratory）

平和共生講座　片柳　真理
Department of Peace and Coexistence
KATAYANAGI, Mari

2014年に着任し、2015年４月に初めて博士課程前期の学生２名を迎えた研究室は、今年度10月にメンバーが10名となりました。博士課程後期２名（パキスタン、ミャンマー）、博士課程前期８名（アフガニスタン、メキシコ、中国、日本、フィリピン、ケニアが各１名、バングラデシュ２名）です。

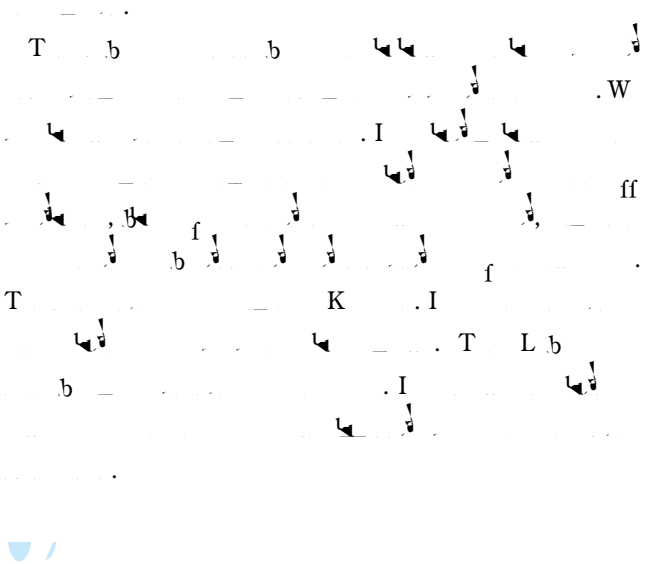
私自身は学問分野としては国際法が専門で、研究テーマは平和構築です。現在はいくつか異なる研究課題を抱えています。具体的には、紛争中に失われた教育機会の回復（ボスニア・ヘルツェゴビナの事例）、ビジネスを通じた平和構築、セキュリティ・ガバナンス（ソマリアの事例）、アフリカの往還移民という４つです。

ゼミ生の研究テーマは幅広く、必ずしも平和構築ではありません。平和と開発、環境、ジェンダーなどとの関係や、ジェンダーと開発をテーマとしたり、日米安全保障を研究している学生もいます。どのテーマもどこかで平和の課題に繋がっていると考えて受け入れた学生たちです。

週１回のゼミでは２名が自分の論文のテーマに即した文献を紹介し、議論する方式を採っています。議論が続いて時間を超過してしまうこともよくあります。論文の報告会の前はそのリハーサルをしたり、フィールドワークを終えた学生は成果発表をしたりすることもあります。それぞれ違うテーマで研究しているわけですが、ゼミで発表される文献は全員が読んでくること、そしてゼミの議論に参加することを規則としています。社会科学分野の大学院生として、異なる分野についても関心を持ち、自分の視点から問題提起できるように訓練することが目的です。

ゼミ生は普段から刺激しあい、また助け合っているので、いいチームワークができています。半年に１回のペースで全員参加の食事会もしています。本当は新入生歓迎会と修了生の歓送会を別にすべきところなのですが、なかなか日程が組めずに歓迎会が歓送会に吸収されてしまいます。一番最近の会はカラオケでしたが、熱唱するゼミ生の姿はゼミと違ってまた印象的でした。研究室は半年ごとにメンバーが入れ替わることになりますが、研究室のネットワークを保ちつつそれぞれの場で活躍していってほしいと願っています。

I IDEC 2014 A 2015 I
T
O 2016. T P D P
B (M), ,
A , M , C , J , P
K , B .
M
. C I
, , S
/ (B
H); ; (S);
A .
T
. S
, , ;
US-J . I
,
A , /
. I
. B
, .
S /
. A ,
ff f ,
. A
, ,
, b b
f



Minh Tu Tran, Junyi Zhang, Makoto Chikaraishi, Akimasa Fujiwara, A joint analysis of residential location, work location and commuting mode choices in Hanoi, Vietnam, Journal of Transport Geography, Volume 54, June 2016, Pages 181-193, ISSN 0966-6923, http://dx.doi.org/10.1016/j.jtrangeo.2016.06.003.

環境負荷の高い自動車・バイクの利用を抑制する有力な手段の一つとして，公共交通利便性の改善や都市構造の集約（例えば，職住近接）といった土地利用・交通施策が考えられます。一方，これらの施策が自動車・バイクの抑制にどの程度寄与するかを正確に評価するためには，「自己選択」の問題に注意を払う必要があります。自己選択とは，例えば，「自動車の運転が好きだから郊外に居住する」，「商店街を歩くのが好きだから都心に居住する」といった，個人自らの選好・態度によって居住地や交通手段を選択することを指します。自己選択の影響が卓越する状況下では，郊外居住者に都心と同程度の都市環境を提供しても，（もともと郊外居住者は自動車の利用を好む傾向にある場合）現在の都心居住者ほど公共交通を利用しない可能性があります。このため，単純な分析で郊外部の土地利用・交通施策効果を計測すると過大に評価してしまう恐れがあります。この問題に対し，これまでに，偏った推計を修正し，適切に施策の効果を計測するモデリング手法が多数開発さ

[illegible]

教育文化講座　平川　幸子
Department of Educational Development & Cultural and Regional Studies
HIRAKAWA, Yukiko

当研究室では、学校への地域参加と退学要因の二つの分野で国際レベルを目指している。

1991年に万人のための教育宣言が採択されて以降、各国と国際機関との努力によって学校の整備が進み、多くの国でほとんどの子どもが就学するようになった。その一方、就学した子どもたちの中途退学と、低学力が問題となっている。

発展途上国の現に発生している問題に積極的かつ実践的に取り組むIDECの方針を受けて、我々の研究室では、学際的な研究方法を使って、このような問題がどうして起こっているのかを明らかにする研究に取り組んでいる。

その一つは、学校への地域参加の効果の研究である。1990年代に、世界銀行等が主導して、学校経営に住民を参加させることで教育の質を改善しようとするスクール・ベースト・マネジメント（S　b　:　SBM）が様々な途上国で導入された。その制度は、今どう機能しているのだろうか。研究室では、2000年ごろからインドネシア、バングラデシュ、ケニア、ザンビア、マラウイなど様々な国で、同じ政府からの投入と子供たちの条件が同じだが成績が異なる学校を比較する研究を行ってきた。結果としては、住民たちは国家試験の成績に大きな関心をもち、その改善のために財政支援をしてもよいと考えているが、学校側にその姿勢や努力がないと、住民参加は機能していなかった。

(1)　T　,K.　H　,Y.(2015). D　f　,　:T　f　M　. *Compare: A Journal of Comparative and International Education.* (26)

二つ目は、退学の要因を、生存分析を使って統計学的に解明する研究である。これまで、途上国における小学校での中途退学は、貧しさや児童労働のためと考えられてきた。確かに退学した児童やその親に尋ねれば、そう答えることが多い。しかし、事前に家庭の経済状況や児童労働の実態などを総合的に調査しておき、その後、退学したかを追跡すれば、どのような要因をもつ子どもが退学しやすいのかをより客観的に明らかにすることができる。　その成果として、次の二つのカンボジアに関する論文を発表した。

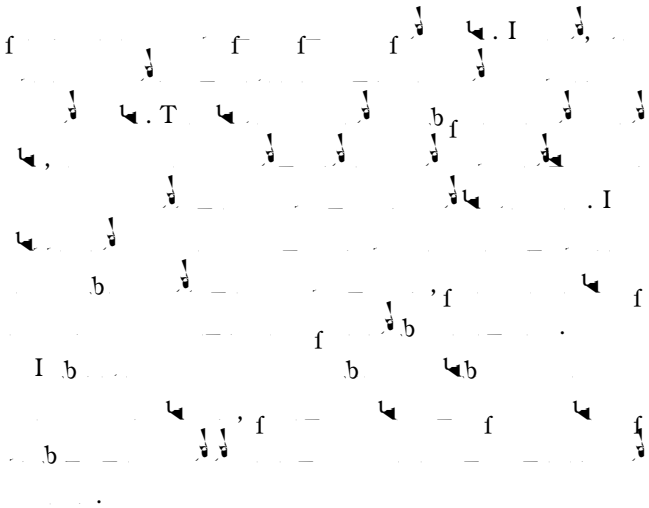
(2)　N　,F.,S　,C.　H　,Y.(2012). R　C　b　. *Asia Pacific Education Review.* V　. 13.　. 573-581.

(3)　N　,F.,T　,K.　H　,Y.(2016). S　C　b　: I　f　. *International Journal of Educational Development.* V　. 49.　. 215-224.

分析の結果、家庭の所有物で見た経済状況や労働時間は小学生低学年・高学年のどちらでも退学との関係が見られなかった。それに代わり、過年齢入学と学級内での成績が強く関係していることがわかった。調査では、親と子供のほとんどは、退学する前には高校又は大学まで進学したいと考えていることがわかった。学級担任から毎月発表される学級内の順位が低いと、高校進学は無理と考えて退学するのではないかと解釈できる。

国際社会が興味をもっている課題に応える研究に真正面に正直に取り組めば、必ず国際的に認められる論文が書ける。我々はそう信じている。

[illegible]



Hongyang Cheng, Haruyuki Yamamoto and Klaus Thoeni, 'Numerical study on stress states and fabric anisotropies in soilbags using the DEM', Computers and Geotechnics (IF=1.60) 76, 170-183, 2016.

先人の知恵である「土のう」の力学的特性を科学的に解明し、現代の地盤補強方法として蘇らせ、社会に役立てる工法開発の研究と試験施工を長年行ってきた。力学的性能を評価した「土のう」工法は、内部の土を袋材で完全に包み込む拘束効果による驚異的な耐荷力を有し、透水性が良いので劣悪な超軟弱地盤の局所圧密・強化作用を発揮し、適度なしなやかさがあるので交通振動や地震動のエネルギーを即座に消散させる等の特性がある。このような利点

のジオテキスタイル補強地盤の変形挙動の解明に多大な貢献をするのみならず、新たな地盤補強工法の開発に資するものである。

The 322nd IDEC Seminar

Speaker: P W , P , U f W

Title: T S C C : C O T

Date: J 15, 2016

P WANG T U W “T S C C : C O T ”.

The 324th IDEC Seminar

Speaker: D . [illegible] R[illegible], A [illegible] P [illegible], H [illegible] P [illegible] I [illegible], H [illegible] C [illegible] U [illegible]

Title: LAWS (L [illegible] A[illegible] W [illegible] S [illegible]): [illegible] D [illegible] L [illegible]

Date: J[illegible] 26, 2016

D . R[illegible], [illegible] H [illegible] P [illegible] I [illegible] 2015 [illegible] "LAWS" [illegible] I [illegible] L [illegible] . I [illegible] LAWS [illegible] C [illegible] C [illegible] W [illegible] (CCW), [illegible] AI (A [illegible]), D . R[illegible] [illegible] LAWS [illegible] CCW [illegible] LAWS. [illegible]

(C [illegible] : N [illegible] K [illegible])

The 325th IDEC Seminar

Speaker: D . L [illegible] K [illegible], V [illegible] P [illegible], S [illegible] U [illegible]; [illegible] A [illegible] P [illegible], F [illegible] P [illegible], S [illegible] U [illegible]

Title: P [illegible] E [illegible] S [illegible] P [illegible] P [illegible] R [illegible] B [illegible] H [illegible]

Date: J[illegible] 20, 2016

D . K [illegible] 20 [illegible] . S [illegible] B [illegible] H [illegible] 1990 . T [illegible] . S [illegible] T [illegible]

(C [illegible] : M [illegible] K [illegible])

The 326th IDEC Seminar

Speaker: D . S [illegible] N [illegible], P [illegible], D [illegible] E [illegible], U [illegible] B [illegible]

Title: T [illegible]

Date: A[illegible] 5, 2016

W [illegible] . W [illegible] UK' [illegible] 2004Q2 2013Q3. O[illegible] . I [illegible]

(C [illegible] : [illegible])

The 327th IDEC Seminar

Speaker: D . [illegible] P [illegible], A [illegible] P [illegible], C [illegible] N [illegible] U [illegible]

Title: G [illegible] S [illegible] G [illegible] S [illegible] C [illegible] C [illegible]

Date: J[illegible] 29, 2016

I [illegible], D . P [illegible] . . . GRACE (G [illegible] R [illegible] C [illegible] E [illegible]) [illegible] C . S [illegible] N C [illegible] P [illegible], H [illegible] R [illegible] B [illegible] C . I [illegible] T GRACE [illegible]

F , T b P L P . (C : N N)

The 328th IDEC Seminar

Speaker: P . D . I . R b H , I f I R M , L U

Title: H G ?

Date: 14:35-16:05, J 29 , 2016

I G , F S . A F , F G . T , - b b . P , P . H G . O . I b F (C : T K b , R b A R T)

The 329th IDEC Seminar

Speaker: D . S N , S . E , E G b P , W B

Topic: SDG ' ECD J b : A S A

Date: A 4, 2016

T 329 IDEC 195 CICE D . S N , S E E , W B . D . N E C D S D , W B UN' S b D G 2015. I IDEC b W B . (C : K S)

The 330th IDEC Seminar

Speaker: M . P D , H R F , D P C S , U S

Title: H ? -

Date: O b 21, 2016

T I P S . M . P D H R F , D P C S , U S , A . H , , , , b f A P , 30 f A . H b f f f . (C : N K)

The 331st IDEC Seminar

Speaker: D . V B , S L E , N U , V A P , H U

Title: W ? O , , , f

Date: S b 29, 2016

T ( ) f US . I US DOT b 1995-2014. T f : " HHI " , f ; " HHI ", - ; " HHI " . A , . I f b f , f US . O f , " HHI " f f . T f

The 332nd IDEC Seminar

Speaker: M. R M, S R, JICA R

Title: F C A M : T, R

Date: S 27, 2016

332 IDEC M. R M, S R, JICA R. M. M, R, "A M". H R, JICA R, R, P, "", "", R, (C : K S)

The 334th IDEC Seminar

Speaker: M. L L H, A D O S M "H E"

Title: P V W : R B D

Date: O 28, 2016

T I P S TAOYAKA P. M. L L H D O S M "H E". S V W V US. S V, S. (C : N K)

The 335th IDEC Seminar

Speaker: P. J M, B S E L

Title: A :

Date: O 17, 2016

T W C G T A E US I P W A A I EU A (C : N K)

The 336th IDEC Seminar

Speaker: M. M N, JICA R C A M S E, N K

Title: A S E P
P

Date: N b 4, 2016

T 336 IDEC M . M
N , JICA R C A
M S E , N b,
K . M . N B
I A (BIA) ;
, , ICT ,
. M . N
b b f f ,
ff - . T f BIA
f b
f , b , b
f . T ,
f f
b . (C : K S)

The 337th IDEC Seminar

Speaker: P . J L L , D C
E E , S U

Title: B M B E C
C H - C

Date: N b 4, 2016

S - f f -
b b
b -
b . T ,
- b 150
f . F , f 10
15 f .
S f
b f
f . I ,
b b
f
P , f -
b .
T b f
b b f
. M , f f
b f

(C : H S L)

The 338th IDEC Seminar

Speaker: P . K N , T R I
f E B A , K b U

Title: A f
f f J
UK : f
?

Date: N b 10, 2016

T TAOYAKA . P f
N f f
f
b f CSR
f J UK. T f
f J
, UK, f
f
. I ,
f f
f
J ,
f UK . I ,
b
I I f I f
f
. T f
f CSR
f b
. (C : S K)

The 339 IDEC Seminar

Speaker: M . A M , S A (E),
J I C A

Title: O C f JICA-
M S E P A

Date: N b 28, 2016

T f JICA' K
C -C P " INSET A
(A) ". JICA f
K , U , E , M , G T ,
, , ,
, . M . A M , S

A (B E), JICA,
“ A C JICA- P
A ”. T b b IDEC
b - JICA’

【受託事業】

研究代表者	研究課題	契約期間	契約金額	契約相手先
馬場　卓也	中国若手行政官等長期育成支援事業 平成28年度修学環境整備補助金制度	平成28年10月１日 ～平成30年９月30日	1,500,000円	一般財団法人 日本国際協力センター
馬場　卓也	平成28年度入学ミャンマー国留学生に対する大学教育付帯講座	平成28年10月１日 ～平成30年９月30日	1,500,000円	一般財団法人 日本国際協力センター
馬場　卓也	「アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」に係る2016年度広島大学大学院国際協力研究科特別プログラム	平成28年10月13日 ～平成29年10月31日	7,500,000円	独立行政法人 国際協力機構

【受託研究】

研究代表者	研究課題	契約期間	契約金額	契約相手先
力石　　真	ETC2.0プローブによる時間信頼性の影響要素に関する研究	平成28年８月１日 ～平成29年１月30日	325,000円	株式会社長大

【奨学金寄附金】

研究者名	講座名	寄附金額	寄附者名
吉田　雄一朗	開発政策	500,000円	航空政策研究会　会長　杉山　武彦
中越　信和	開発技術	6,000,000円	株式会社建設環境研究所　代表取締役社長　富田　邦裕
山本　春行	開発技術	2,000,000円	山本春行（JICA 案件化調査業務）
山下　隆男	開発技術	4,320,000円	応用アール・エム・エス株式会社　代表取締役　山田　敏博
久保田　徹	開発技術	2,500,000円	ニチアス株式会社　研究開発本部長　米澤　昭一
深見　兼孝	教育文化	50,000円	公益財団法人佐藤陽国際奨学財団　代表理事　藤田　昌子
渡邉　園子		1,000,000円	公益信託富士フイルム・グリーンファンド 受託者　三井住友信託銀行　リテール受託業務部長　宮沢　次郎
別所　裕介		207,000円	別所裕介（公益財団法人日本科学協会）

[教員　Academic Staff]

H28.10.1.付け

採用　　カロ バーネット ヨハン　　助教

(E　　)　C　-B　　, J

A　　P

開発政策講座　D　　D　　P

[教員 Academic Staff]

H28.9.30.付け

辞職　石原　正恵　　講師

(R　　)　ISHIHARA, M

A　　P

開発技術講座　D　　D　　T

（京都大学へ）

辞職　別所　裕介　　研究員

(R　　)　BESSHO, Y

R

平和共生講座　D　　P　　C

（京都大学へ）

平成28年（2016年）

12月13日～12月20日

事前審査受付期間（対象者のみ）

D　. 13　20, 2016

A

平成29年（2017年）

１月23日～１月27日　　願書受付期間

２月15日～２月16日　　入学試験

２月23日　　合格発表

J　. 23　27, 2017　　S

開催日時：平成28年７月１日（金）18:10-19:40
開催場所：IDEC 大会議室
講　　師：在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館
　　専門調査員　山岸　良馬 氏
参加人数：23名

■第３回 国際協力キャリアセミナー「IDEC 卒の商社マン２人と話そう」
開催日時：平成28年11月２日（水）18:10-19:40
開催場所：IDEC 大会議室
講　　師：三井物産　大木　健司 氏
　　双日株式会社　三原　遼大 氏
参加人数：24名

■第４回 国際協力キャリアセミナー「国際コンサルタントの仕事－失敗と絶望から勝ち取る成果」
開催日時：平成28年12月14日（水）18:10-19:40
開催場所：IDEC 大会議室
講　　師：カンボジア・パンニャサストラ大学
　　准教授　中川　香須美 氏
参加人数：21名

その他 IDEC の動き（2016年７月～12月）
Other Activities and Events at IDEC

■インドネシア国人間居住・住宅研究所との部局間協定を締結（2016/07/01）
□Agreement on Research Cooperation was concluded with the Research Institute for Housing and Human Settlements, Agency of Research and Development, Ministry of Public Works and Housing, The Republic of Indonesia (2016/07/01)

■セマラン州立大学一行が表敬訪問 (2016/7/19)
□IDEC received the visit by Dean of Faculty of Mathematics and Natural Science, Semarang State University(UNNES)（2016/7/19）

■インドネシア教育大学一行が表敬訪問 (2016/7/20)
□IDEC received the visit by the delegate of the Universitas Pendidikan Indonesia (UPI) (2016/7/20)

■ダブルディグリープログラム実施にかかるベトナム交通運輸大学との部局間協定を締結 (2016/08/09)
□Technical Academic Agreement on Collaboration in the Double Doctoral Degree Program was concluded with the University of Transport and Communications, Socialist Republic of Vietnam (2016/08/09)

■モザンビーク教育大学一行が表敬訪問 (2016/11/8)
□IDEC received the visit by Rector of Pedagogical University of Mozambique (2016/11/8)

■パティムラ大学との大学間協定を締結（2016/11/30）
□Hiroshima University have concluded an International Agreement with Universitas Pattimura, The Republic of Indonesia（2016/11/30）

■ユダヤナ大学一行が表敬訪問（2016/12/9）
□IDEC received the visit by Vice Rector of University of Udayana（2016/12/9）

■メーファルアン大学との大学間協定を締結（2016/12/13）
□Hiroshima University have concluded an International Agreement with Mae Fah Luang University, Thailand（2016/12/13）

***IDEC* 広報委員会（*2016* 年度）**
◇ IDEC Public Relations Committee 2016 ; 高橋与志（委員長）TAKAHASHI, Yoshi（Chairperson);
チャン ダン スアン（副委員長）TRAN, Dang Xuan（Vice-Chair);
中矢礼美（委員）（ニュースレター編集担当）NAKAYA, Ayami（Member）（Editor),
山根達郎（委員）YAMANE, Tatsuo（Member), 福田勝文（委員）FUKUDA, Katsufumi（Member）

IDEC　NEWS-LETTER　No. 41 / 2017.3.
広島大学大学院国際協力研究科　広報委員会
Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima University
739-8529　1-5-1 Kagamiyama, Higashi-hiroshima, Hiroshima, Japan
739-8529　広島県東広島市鏡山 1-5-1 Phone（082）424-6906, 6905, Fax（082）424-6904
https://www.hiroshima-u.ac.jp/idec/